

第一新聞

発行所
第一未来館
Tel:088-655-5001

第172号



夏休みこそ伸ばしたい 「語彙力」という一生の財産

夏休みは、子どもたちが一年の中で最も自由に使える時間です。この期間をどう過ごすかで、二期以降の学力には大きな差が生まれます。塾では算数や数学、英語などを学びますが、それらすべての土台となる力があります。それが「語彙力」です。

語彙力とは、単に知っている言葉の数ではありません。言葉の意味を理解し、場面に応じて使い分け、自分の考えを表現できる力です。教科書に書かれている「比較する」「考察する」「根拠を示す」といった言葉の意味が分からなければ、問題の意図を正しく理解することはできません。実際に、成績が伸びる子どもたちは、読書量が多く、豊富な語彙を身につけています。

語彙力を増やす最も効果的な方法の一つが読書です。本には日常生活ではあまり使わない言葉や、多様な表現が数多く登場します。物語を楽しむながら自然に言葉に触れられるため、無理なく語彙を増やすことができます。特に夏休みは、時間をかけて一冊の本と向き合える絶好の機会です。

小学生におすすしたいのは、物語を楽しむながら語彙を広げられる本です。低学年なら『ふしぎ駄菓子屋 銭天堂』シリーズは、物語の面白さとともに少し難しい言葉にも触れられます。中学年から高学年には『モモ』や『エルマーのぼうけん』『西の魔女が死んだ』などがおすすです。読み終えた後に「印象に残った言葉は何だった？」と親子で話すだけでも、語彙の定着につながります。

もちろん、本は「難しいもの」を読む必要はありません。大切なのは、自分が「続きを読みたい」と思える一冊に出会うことです。興味を持って読み進めた本ほど、言葉は自然と記憶に残ります。そして、知らない言葉が出てきたら辞書で調べたり、メモを取ったりする習慣をつけられ、その効果はさらに高まります。

この夏、ぜひ一冊でも多くの本を手にとってください。本を読むことは、単に知識を増やすだけではなく、言葉を増やし、考える力を養って、自分の世界を広げることにつながります。語彙力は、一朝一夕では身につけません。しかし、毎日二十分の読書を四十日続けられ、それは八百分の「言葉との出会い」になります。この積み重ねが、二期以降の学力だけでなく、将来にわたって学び続ける力の土台となります。



(宇都宮先生)

中学3年生の皆さん(8月)

中学3年生の皆さんにとって、この夏休みは高校入試への大きな分岐点です。夏休み明けには第1回・第2回・第3回の基礎学力テストが続きます。志望校決定にも大きく関わります。「夏を制する者が受験を制する」という言葉の通り、この夏の過ごし方が、秋以降の成績を大きく左右します。そこで今回は、基礎学力テストを攻略するための教科別学習法と、効果的な生活リズムについて紹介します。



(工藤先生)

トを攻略するための教科別学習法と、効果的な生活リズムについて紹介します。

◎国語は、読解問題で、文章全体の流れを意識しながら、筆者の主張や登場人物の心情を正確に読み取る力が求められます。作文では、条件を確認した上で、短時間で内容構成を考える練習を重ねましょう。

◎数学は、関数・図形・確率など頻出単元を重点的に復習し、間違えた問題を必ず解き直ししましょう。

◎英語は、長文読解を中心に、文の骨格を意識して速く正確に読む練習を続けてください。「読む・聞く・書く」の3つをバランスよく鍛えることが重要です。

◎理科は、化学・物理・生物・地学の4分野をバランスよく復習しましょう。計算問題や実験・観察の記述問題は、結果だけでなく理由まで説明できる力を身につけましょう。

◎社会では、地理・歴史・公民を偏りなく学習することが大切です。資料を読み取る問題への対策も重要です。

また、計画的な学習習慣を身につけることも大切です。朝は英単語や漢字などの暗記、昼は数学や理科の演習、夕方は国語や社会の復習というように、教科を組み合わせると集中力が続きます。週末にはミニ模試を行い、時間配分や解答スピードを確認しましょう。

そして、体調管理も受験勉強の一部です。十分な睡眠をとり、スマートフォンやゲームの時間を決めて、勉強に集中できる環境を整えてください。

この夏の努力は、秋以降の自信となり、第一志望校合格への大きな力になります。2026年の夏を「人生で一番頑張った夏」と言えるよう、一日一日を大切に過ごしましょう。

力の蓄積

夏真っ盛り。連日猛暑日が続くき、夏バテになりやすい日々。バランスの良い食事や、水分補給、十分な睡眠、など体調管理には十分気を付けて、この夏を元気に乗り切ろう！

夏講は通常授業と違い、約1ヵ月間、多くの単元を一気に復習・予習し、家庭学習を含めると莫大な時間勉強したことになると思います。9月から2学期がスタートし、さぞかし成績が劇的に上がるんだらう。そう思いたくなるのは当然ですよ。

思い通りの成績向上が見受けられたらそれがベスト、しかし、思ったより成績が上がっていないと感じた時のその後の行動が最も重要です。夏に実力を蓄積させたはずが、そのあとすぐに目に見える形で成果として現れないときも多々あります。そんなとき、「結局頑張っても上がらないんだ。」と、歩みを止めてしまうのはよくないです。努力を継続していれば、10月、もしくは11月に必ず成果が現れ始めます。諦めず続けることが本場に大事です。

1ヵ月、または2ヵ月、または半年後の自身の成長した未来を手に入れるための実力を蓄えていく夏に、みんなできていきましょう！



(竹田先生)

自らの時間を作る夏

毎日、照りつける太陽の下で、セミの鳴き声が元気がいいに響いています。夏休みは、普段できない体験をしたり、家族や友達と過ごす時間、自分の好きなことにじっくり取り組んだりできる、特別な時間です。一方で、暑さに負けてつい生活のリズムが乱れ、「明日から頑張ろう」と思っているうちに、あつという間に夏が終わってしまふこともあるかもしれません。さて、夏休みは、「時間がある」のではなく、「時間をつくれる」

特別な期間です。一日二十四時間は、誰にでも平等に与えられています。その時間を何に使うかで、一ヵ月後の自分も、一年後の自分も変わってきます。

大切なのは、完璧を目指すことではありません。今日できることを一つ一つ積み重ねることです。その小さな積み重ねが、やがて大きな自信となり、未来の自分を支える力になります。

夏休みが終わる頃、「この夏、頑張ったよかった」と胸を張って言えるよう、一日一日を大切に過ごしてください。第一ゼミで学んだ夏が、みんなの努力が、秋にはきっと大きな実を結ぶことでしょう。



(日下先生)

ハイフリット通信

夏休みは、一年の中で最もまとまった学習時間を確保できる特別な期間です。特に受験学年の皆さんにとっては、志望校合格へ向けた大きな分岐点となる期間と言えます。「夏を制する者が受験を制する」「夏休みは受験の天王山」という言葉があるように、この期間の過ごし方が秋以降の学力や成績に大きく影響します。

毎年、夏休みを境に大きく成長する生徒がいます。基礎を徹底的に固めたことで苦手科目を克服した人、演習量を積み重ねて模試の成績を一気に伸ばした人など、その成果はさまざまです。一方で、生活リズムが乱れ、計画どおりに学習できず、夏休み前よりも学習習慣が崩れてしまつケースも決して少なくありません。長期休暇は時間があるからこそ、意識して過ごす人と何となく過ごす人との差が非常に大きくなります。睡眠や食事など必要最低限以外の時間をすべて学習に打ち込み、自分の限界に挑戦する生徒も数多くいます。今年の夏期講習でも、徳島第一ゼミの塾生の皆さんが、それぞれの目標に向かって充実した毎日を送ってくれることを期待しています。



(小倉先生)

さて、まだ受験学年ではない人も多いと思います。しかし、「受験生ではないから大丈夫」と考えているのは、気付いた頃には受験学年を迎えてしまっています。毎年、多くの受験生が口にする言葉があります。それは、「もっと早く勉強を始めておけばよかった」という後悔です。この言葉を毎年何度も耳にしており、「また今年もこの季節か」と風物詩のようにも感じます。

だからこそ、この夏は今できることを先送りにしない姿勢を大切にしてください。苦手単元をそのまま残しておくと、二期以降に新しい学習内容が加わり、復習に充てる時間はますます限られてしまいます。弱点は放置するほど克服が難しくなります。時間に余裕のあるこの夏休みだからこそ、苦手分野の一つでも多く克服し、自信を持って次の学習へ進める状態をつくっておきましょう。受講講座を計画どおり修了させることはもちろん、高速基礎マスターで高レベルの英単語まで完全修得すること、数B・E・Kの問題演習を最後までやり切ること、これまで受験した確認テストや修了判定テストを再受験し、確実に理解を定着させることなど、この夏に取り組むべき課題は数多くあります。

夏休みは、あつという間に過ぎていきます。計画を立てただけで満足するのではなく、現在の進度を定期的振り返り、予定どおり進んでいるのか、それとも修正が必要なのかを確認することも重要です。必要に応じて計画を見直しなが、一日一日を大切に積み重ねてください。夏休みが終わったとき、「この夏は本当によく頑張った」と胸を張って言えるような日々を送ってほしいと思います。教師一同、皆さんが目標を達成できるよう全力でサポートしていきます。一緒に実りある夏休みをつくっていきましょう。

受験生と夏休み

受験生にとって、夏休みは単なる長期休暇ではありません。仮に一日10時間勉強するとして、40日間で約400時間になります。学校がある時期に400時間を確保しようと思えば、何か月もかかるでしょう。つまり、夏休みは一年の中で唯一、「まとまった勉強時間」を確保できる貴重な期間なのです。しかし、時間をかければ、それだけで結果につながるわけではありません。

「今日はよく頑張った」という達成感だけで一日を終える人と、「今日は合格に必要な一歩を進められた」と振り返ることが出来る人では、夏休みが終わる頃には大きな差が生まれます。

東進では、この夏に共通テスト・二次試験の過去問演習を進めます。過去問は、今の実力を測るためだけに取り組むものではありません。自分に何が足りないのかを明確にし、秋以降に何を重点的に鍛えるべきかを知るために取り組むものです。

9月から始まる志望校別対策では、この夏に見つけた課題を一つずつ克服していきます。だからこそ、夏の過去問演習は「終わらせろこと」が目的ではなく、「秋以降の学習を成功させるための準備」が目的なのです。

受験まで残された時間は、誰にとっても平等で、決して多くはありません。その中でも、この夏ほど自分を大きく成長させられる期間はありません。8月の終わりに、「この夏があったから今の自分がある」と胸を張って言えるよう、一日一日を大切に積み重ねていきましょう。

※一日10時間という勉強時間は、例に挙げましたが受験生にとって少なすぎです。

(齋藤先生)



目標突破に向けて...

5月に実施した保護者会でも、お伝えした通り、この夏は学年ごとに明確な目標を設定して学習を進めています。高1生は「英語・数学IA・国語で6割突破」、そして高2生の東大・京大・医学部志望者は「英語・数学・国語で7割5分突破」が目標です。その目標を達成するために、日々の受講はもちろん、高速基礎マスター(単語・熟語・文法)、数学、基礎定着演習、個人別定石演習に取り組んでいます。

模試目標突破に向けて大切なのは、やるべきことを、やるべき量で、やるべきタイミングで積み重ねることです。一つひとつの学習を丁寧に積み重ねた人ほど、夏の終わりに大きく成長しています。

ここで各学年がこの夏に特に意識してほしいポイントを、もう一度整理しておきましょう。そして、自分の学習計画を見直し、「今本当にやるべきこと」が出来ているか、確認をしてみましょう。

- ★高2生 この夏のポイント
①英・数・国の3教科すべてで目標突破を目指すこと
②理科・社会の学習をスタートすること

- ★高1生 この夏のポイント
①苦手科目を克服すること
②得意科目を徹底的に伸ばすこと

8月23日に実施される共通テスト本番レベル模試は、目標点を突破できるよう、必要であれば学習計画を修正し、残りの時間を有効に使ってください。そして受験後、模試の結果をどう活かすかは皆さん次第です。高1生・高2生だからこそ、時間をかけて着実に実力を伸ばすチャンスがあります。模試を活用して、目標に向けた一歩を踏み出しましょう!

(伊勢先生)



オープンキャンパス

8月は、多くの大学でオープンキャンパスが開催されます。大学や学部について考える絶好の機会です。

みなさんは、「何のために大学へ行くのですか?」と聞かれたら、何と答えますか。すでにはっきりとした目標を持っている人もいます。一方で、「何となく」「みんなが進学するから」という理由で大学進学を考えている人もいます。もしも

大学は、専門的な知識を学ぶだけでなく、将来の夢を実現するための大切な場所です。大切なのは、「大学に入ること」を目標にするのではなく、「大学で何を学び、その学びを将来にどう生かしたいのか」を考えることです。

夢や目標が明確になるほど、勉強への意欲も高まります。まだ将来の進路が決まっていなくても、自分が興味のある分野や、その先にある仕事について調べてみましょう。

オープンキャンパスは、自分の未来を考える絶好の機会です。積極的に参加し、自分に合った進路を見つけてください。



(河野先生)

まだ間に合う! 8月は「基礎力アップ」のチャンス

8月に入り、夏休みも後半戦です。「計画通りに進んでいて順調!」という人も、「宿題が溜まって焦っている...」という人もいます。

もし前半に思うように勉強できなかったとしても、まだ諦める必要はありません。この8月からでも、やり方次第で大きく成長できます。今やるべきことは、「できない」を「できる」に変える徹底した復習です。

◎算数・数学...計算や公式をも

う一度解き直す。

◎国語・英語...間違えた漢字や英単語を繰り返し覚える。

◎理科・社会...問題集を何度か解き、基本用語を確認する。

勉強時間の7割ほどは、苦手分野の復習に使いましょう。基礎はスポーツでいう「基礎練習」と同じです。土台がしっかりしていなければ、応用問題に挑戦しても思うような成果は出ません。逆に、基礎を繰り返し練習して「自然にできる」状態まで身につければ、学力は一気に伸び始めます。

夏休みが終わる頃には、「前より問題が解ける」「授業が分かる」という実感が少しずつ増えてくるはずです。これが以前にお伝えした「学力はあとから指数関数的に一気に伸びる」ということです。今流している汗は、秋以降の大きな成長となって必ず返ってきます。

保護者の皆様は、お子様が規則正しい生活を送れるよう見守っていただくとともに、「頑張っているね」「最後まで粘っているね」「最後の過程をぜひ褒めてあげてください。その一言が、お子様の自信とやる気につながります。」

「8月、最後までやり切った!」と胸を張って言えるように。今日からの一日一日を大切に積み重ねていきましょう。

(市原先生)

夏本番の過ごし方

いよいよ暑い夏がやってきました!みなさん、元気に過ごしていますか?

暑い日は、ついアイスクリームやジュースなど、冷たいものをたくさん食べたり飲んだりしたくなりますよね。でも、食べ過ぎ・飲み過ぎはおなかの調子を悪くしてしまうことがあります。何事も「ほどほど」が大切です。夏を元気に過ごすためには、「早寝・早起きをする」「好きな食べ物に体を動かすこと」がポイントです。

2026年 8月の予定

- 8/2 (日)
第2回 京大本番レベル模試/高2京大本番レベル模試
第2回 一橋大本番レベル模試/高2一橋大本番レベル模試
第2回 東京科学大本番レベル模試/高2東京科学大本番レベル模試
8/12 (水) ~ 16 (日)
盆休み (小中)
- 8/23 (日)
第3回 共通テスト本番レベル模試
8/28 (金)
夏期学力テスト (ゼミ小4 ~ 中3)
夏期講習最終日
- 8/30 (日)
第2回 東大本番レベル模試/高2東大本番レベル模試
小4 公開組分けテスト (四谷) 9:00 ~ 11:15
小5 公開組分けテスト (四谷) 9:00 ~ 12:05
- 8/31 (月)
2学期 通常授業 各クラス順次開始 (小中)

※保護者説明会の日程は未確定 (東進)

お問合せ、お申込みはこちらから
0120-17-3759



第一駅前英会話)

イントです。しっかり食べて、しっかり遊んで、たくさん笑って、楽しい夏休みにしましょう。また、暑い日でもシャワーだけではなく、お風呂にゆっくり入るのもおすすめです。エアコンのきいた部屋にすることが多いと、体は思ったより冷えています。お風呂で体を温めると、疲れが取れて夜もぐっすり眠ることが出来ます。

そして夏には、聞くだけで涼しい気持ちになれるものや、夏ならではの楽しみがたくさんあります。風鈴の「チリン、チリン」という音を聞くと、なんだか涼しく感じますよね。夏の風物詩の一つである怪談話も、「ひんやりした気分になる」と昔から親しまれています。でも、怖い話が苦手な人は無理をしなくても大丈夫。自分に合った夏の楽しみ方を見つけてみてください。

言葉の力

NO.262

「学ぶとは」

知らない事は暗い夜ではなく、明日を照らす灯火に変わる。

一文字を覚え

一つの問いに向合う度、心の中に小さな光が差す。

努力はすぐには花にならず、それでも根は土の中で深く広がり、見えない場所で開花のときを、今か今かと待っている。

